

のは主に此不從順にある故、新年と共に大人も子供も心の改まりし機会をはづさず、此命令を必ず守らせるといふ事と、従つてむづかしい命令は出さぬといふ事を一つの主義として、夜も晝も實行なさらん事を希望いたします。

もとより此一つの主義さへ實行出来ればそれで充分かといへば、無論そうではないので、人々の考もあり、教育上の意見も違ひましようから、どういふ主義にせよといふ事は出来ませぬ、がたゞ從順といふ事が凡ての躰のもとになる様に考へますし、又これが一番に實行し易く、殊に家庭の困難はこれが大部を占めてをりますから、まづこれをお進めするわけ、これが御不養成ならば何なりと兎に角一つ確かなる主義を持たるゝ事が望まらるゝのです。

御實行の上困難の事がありましたら伺いました上で又考を申上る事と致しませう。

雑感

雨森 釧

我儘で、氣六敷泣き出せば容易にやまず、常に他人の顔色をうかゝひて心安からざる如き幼児ありしが、是等は父母或は幼児を保護養育する人の性質、穩ならざるが爲め、常に其人の顔色を見て事をなしたる結果ならんと思ひ、愛を以て温に言葉と和らげて接せしかば、幼児は次第に心穏たり。

依頼心強く、何事も自らなさず食事も遊びも保護者の側にあらざればなさず、身邊の事もすべて

出來させんといひて一も二もなく他に依頼する幼
 兒は其自ら何事をかなしたる時、務めて愉快の念
 を起さしむれば次第に獨立心を養ふ事を得可し。

五六才位の幼兒はよく物真似をなすものにて或
 時ハンカチーフを被ぶり、羽織を倒に着木片を持
 ち足を擧げ、蹈り居れり、何の真似なりやと問ひ
 しにヒョットコなりといふ、又或幼兒は役者の聲
 色をなし、此間の芝居は姉さんが大層泣きました
 といひ、また或幼兒は殘酷なる真似をなせり、か
 らる年齢の幼兒に芝居或は野卑極まる蹈などを見
 物せしむるは、識らず知らずの間に殘酷とか悲哀
 の爲めに精神を刺撃せらるべければ、かゝる見物
 は望まじきものにあらざ。

疳癬強く動もすれば人を引掻き、或時は他人の
 争を見て其を仲裁せんとて中に入り、却て友の

怒を増す様な事をなす子供あり、是一種の性質に
 て何にても氣にかゝり少しの事ありても堪へ難く
 遂に亂暴に至るものと、又一種の病的なるとあり
 生れつき疳癬なれば成る可く、精神の靜まるやう
 の境遇に多く出逢はしめ、或は論し或は誠しむる
 事もあるべし、然れとも病氣より來りしものとせ
 ば、深く注意せざるへからず、即ち胃病の爲り或
 は發熱を催す時などに多く發見するものなれば其
 原因をよく考へ相當の矯正法を考へざるべから
 ず。

家庭閑話

その子

▲家庭の教育には一家の家風といふもの殊に大切